荒屋地区の生家に数千本の大輪――

故郷に咲かせたひまわり

夏の花と言えば？――そう、明るく元気なイメージのひまわり。この夏、荒屋地区のとある一角を彩った一際目を引くひまわり畑を、皆さんはご覧になりましたか？

数千本にも及ぶ大輪のひまわりを育て上げたのは、町出身の花輪洋子（ようこ）さん（69歳）。生家の敷地を利用し「故郷のために何かできることはないか」と考え始めたのがきっかけと話します。平成24年、手始めに田畑の整備からスタート。この時はまだ具体的な利用方法は考えていませんでしたが、お住まいの天童市から定期的に町を訪れては、少しずつほ場を綺麗にしていきました。そして３年前、たくさんの人が集まれる場になるように願いを込め、作物はひまわりに決定。今年は５月25・26日に１万本分の種を、ひとりで植え付けました。その後も週に１度は訪れ、朝４時から日が暮れるまで入念に手入れ。その姿を見ていた地区の皆さんも「このひまわり畑は花輪さんの努力の賜物だ」と手をたたきます。

10代で故郷を離れた花輪さん。「今では町を出て過ごした時間の方が長いが、金山が大好きだ。今でもよく故郷自慢をしている」と笑います。関東に生まれ育ち、今年大学に進学したというお孫さんも金山のファンだそう。「休暇期間を利用して金山にしばらく滞在したこともある」と続ける花輪さんはとても嬉しそう。手塩にかけて育てたこのひまわり畑も、さらに金山ファンを増やしてくれそうです。

夏らしい青空が広がった８月３日、昨年に引き続き２回目の「金山向日葵まつり」が開催されました。タイミングが合うように一度に植え付けたひまわりも、思惑通り満開。町内外からたくさんの友人らが駆け付け、見事に咲き誇った大輪を観賞していました。花輪さんは「皆さんの協力に感激だ」と目を潤ませていました。

来年はさらに植え付け面積を増やす予定だという花輪さん。「10年は頑張る」と明るく笑う顔はまるでひまわりのよう。「人が好き・金山が好き」から誕生したひまわり畑。花輪さんの思いが詰まった夏の結晶です。ほんの一時だけ咲かせるその美しさを、来年の夏も楽しみにしています。

▼育てあげたひまわりに囲まれて太陽のように笑う花輪さん